

令和2年度印西市地域公共交通会議
第2回師戸地区対策分科会 会議録

開催日時 令和2年12月14日(月)午後3時から
開催場所 印西市役所 会議棟2階 204会議室
出席者 豊田裕子委員、石井隆委員、佐藤信之委員、川嶋一郎委員
欠席者 石橋速人委員
事務局 交通政策課 本多課長、小林係長、鈴木係長、成田主査、阿部主査
傍聴者 0名

次 第

- 1 開会
- 2 課長挨拶
- 3 議題
 - (1) 印西市地域公共交通計画(素案)の内容について
 - (2) 宗像路線の実証運行について
- 4 閉会

会議録(要約)

1 開会

(事務局) ただいまから、令和2年度第2回師戸地区対策分科会を始めさせていただきます。

2 出欠の報告

(事務局) 議事に入ります前に、本日の委員の出欠につきまして、ご報告いたします。
石橋速人委員は、本日欠席でございます。

(事務局) また、本日の会議につきましては、印西市地域公共交通会議設置要綱第7条第6項の規定に基づき、公開とさせていただきます。本日の会議においては、傍聴の申し出はありませんでした。

(事務局) 本日の会議でございますが、会議録作成のため、録音させていただきますので予めご了承ください。

3 課長挨拶

(事務局) 続きまして、交通政策課長の挨拶でございます。

【 課 長 挨拶 】

4 議題

(1) 印西市地域公共交通計画（素案）について

(事務局) それでは、議題(1)「印西市地域公共交通計画（素案）について」、コンサルタント会社ライテックより説明させていただきます。

【議題(1) (株)ライテック説明】

(事務局) 事務局から補足でございます。2ページ、印西市の公共交通の説明に載せさせていただいています一般のタクシーについての説明が抜けていましたので、こちらについて入れることで進めております。

先ほどの説明につきまして、主な点に関しましては、本分科会で関係があるところは87ページの「コミュニティバス及び補助対バス路線の見直し・改善のための仕組み作り」になると思います。この辺を中心にご意見を頂ければと思います。

(委員) 事業者にお伺いしたいです。補助路線で収支率のページ、赤字ということによろしいですか。

(委員) そうです。赤字部分は補助をいただいている。

- (委員) 将来的に維持・持続可能な公共交通を考えると、補助路線でも収支率が100にならないのは、どうなのかと単純に思いました。
- (委員) 交通不便地域の中で、当然赤字路線を覚悟して、赤字部分は補助していただける形で運行している。
- (委員) 補助路線に対する補助のあり方が、補助を出して運賃を下げよう、利便性向上のための取り組みというのは。
- (委員) 何年も前から要望があって、師戸地区を運行している。利用する人が少ない状況はわかっている。これからその地区で伸ばせるかは、ちょっと難しい。今、臼井から牧の原までという形で、臼井から乗って牧の原まで行く人、牧の原から乗って臼井まで行く人、高校生ですが、微々たるものです。牧の原は戸建てが結構ありますが、そこでの利用があるかどうかだが、その地区区間での300円は高い。
- (委員) これから旅客が増加していくことが見込めない場合、収支率が悪くなる時にどうなるのかと思いました。民間事業として撤退という状況も想定される。ふれあいバスのように委託する形をとることになるかと。そこまでは想定していないと思います。10年、20年先をみると、結構危ういのかと印象を受けました。利用促進について書いてありますが、そこにニーズが無ければお客が増えない。それを考えると実現可能性があるのかと。
- (委員) 現在、少子高齢化ですけど、スタートの時は、結構高校生の利用が定期であった。今はほとんど0に近い推移になっている。
- (委員) 収支率が落ちてきて、25パーセント。
- (委員) スタートは、印旛村だったのですが、当時、木下駅から臼井駅まで阪東バスが走っていて、赤字路線で撤退したいというところで、うちの方でどうですかと当時の印旛村から話があった。そんな中で始めたことです。だから、赤字でも補填していく形で。
- (委員) 補助路線の制度自体が、この計画の中で維持可能なのかどうかということが問題点として出てくるのかと気になったところです。この計画の期間の中で、大きく変わるということはないと思います。
- (事務局) 他にご意見はいかがでしょうか。85ページにあります、「バス路線の運賃格差の是正」についてご意見を頂ければと思います。
- (委員) 補助路線で補助金が入って収支率が25パーセント、運賃が300円、ふれあいバスよりも高いという状況で、収支率を上げるためにはさらに値上げしないと元が取れない。運賃

と経営のバランスを考えると、どうなのでしょう。

(委員) 距離があるのでこの300円というのは、牧の原駅から臼井駅までの料金であれば結構な割安になると思います。ただ、駅の周辺で乗り降りするのはかなり割高になる。

(委員) 短距離利用者に対して、ある程度安い運賃を設定して、そこで利用促進をしていくという方法もありうるということですね。

(委員) また、そこで例えば距離運賃だと、どういうふうにお客さんから自動で運賃をとる運賃箱を用意すればよいのか。

(委員) 運賃を3段階にして、200円、300円、400円とする。400円だと遠く利用する人いなくなってしまう。ふれあいバスが100円で非常に低い運賃を設定していることは、非常にアンバランスとなっている。そこで補助路線が300円というのは、ふさわしいのかどうか。利用者側からして、どうなのかという気がします。最終的に民間の会社が収支率が悪くなって、続けたくないという時に、ふれあいバスになる。そしたら運賃100円ですよ。そう言った意味では、妙な感じになる。ねじれの関係ができていて、こういう状況というのはよくないと思います。ふれあいバスの運賃を議論するならば、補助路線の運賃も。それから、路線バスの運賃も含めて統一的に筋の通った調整があつていいような気がします。計画の中で盛り込むのかは別の話です。素案をみて思いました。素案の中では、ふれあいバスはこうです、補助路線はこうです、路線バスはこうです。それぞれ考えていますが、いつ補助路線からふれあいバスに変わるかも知れないですし、そのような意味で制度間の移動というのを踏み込む時に、見込まれる状況が来た時に、どうなるのか。ふれあいバスを代替で走らせると、運賃の差があるわけです。矛盾を感じてしまった。宗像から印旛日本医大まで300円、ふれあいバスだと100円になるわけですね。委託された事業者が放棄すれば100円になるわけです。

(委員) 例えば日医大から牧の原まで、それが100円であれば、そっちに乗り移っていきます。

(委員) そういう話を考えないといけないのかなと。

(事務局) 本来であれば、そのような話を一体化できればと思います。今の印西市の現状をみるとそれぞれ合併前の制度について手をつけていなかった。最初の手をつける計画として、これを作っている形になる。これを5年やって、その先の話になると思います。85ページにあります。ふれあいバスと路線バスの運賃の考え方は現段階では分けていまして、路線バスについては、特に定期乗車券の割引に着目して見直し、ふれあいバスの格差を埋めていくことが第1段階になります。

(委員) 路線バスの定期の運賃から見直すとおっしゃいましたが、ほとんど定期の利用がないと

思います。その中でそこから手をつけるとなると、結局現状が変わらないのではないかと思います。そして路線バスがダメになったときにふれあいバスとのお話がありましたが、長年印旛村の時から住んでいるこちらとしては、路線バスがなくなってしまったら、その地域はバスも何も通っていないのではないかと思いますというふうに思う現状です。私世代の人は、運転ができます。車で80代、90代の父や母を送っていますけど、私たちが10年、20年後に免許返納したときに、果たしてそこに何が走っているのだろう。大成交量が今走らせてくれていますけれど、そこに走らせていただいて、300円の運賃がどうなるかわからないのですが、そこに乗れるのかという不安はあります。今は私たちの世代がまだいます。ただ、私たちの世代の子供たちは、出て行っています。大学や会社には通えない。夜遅く帰って来られない、朝早くは行けない。みな出て行ってしまいますので、この後が、運転する人たちがいなくなってきましたので、元印旛村地域に住んでいる人たちは、生活の足が見えない状況にはなっています。計画を策定していただいて、それが便利なほうにだけ充実していっているだけでなく、不便な地域にもきちんと網羅していただければいいのですが、今のままだと、私たちの足はなくなってしまうのかな、難しいのかなと思います。

(事務局) 計画の前提として、今あるものが維持できなくなる、持続ができなくなるのを防ぐための計画です。もちろん公共交通空白地域の対策ということで、計画にも入れていまして、現状ないところも住民の方が必要最低限の足を確保しなければならない。今便利なところは、それを維持する。持続可能を謳っていますので、そういう視点も入れながら、最終的に路線バスとコミュニティバスの運賃格差の解消を目指して、その中で定期券のところから着手するとか、いろいろと切り口があると思います。最低限の利便性を確保するための計画というのをご理解していただければと思います。

(委員) 1点付け加えさせていただきますと、以前から言っていたのですが、高齢の方のふれあいバスの無料、路線バスの人たちは、何もなかったという格差。結局そこからあったので、こっちの印旛村のお年寄りはどうするんだ。ふれあいバスが地域に走っていない人は、結局それがないじゃないか。あちらもやるのであれば、こちらもやる。順を追っていくのはわかるのですが、私が委員になる動機が、どうにかして印旛地域の交通格差をよくしてくれたらなという思いで委員になりました。3年目になるのですが、なかなか難しいのかなと思います。

(事務局) ご意見を踏まえて、今後具体的な事業を計画していく段階に入っていきますので、検討したいと思います。

(委員) 85ページが一番下、「収支状況を踏まえつつ改定を検討」。これが引かかる。収支率25パーセント出しているところで、改定を検討するならば、値上げにつながるのかなと思いますが。

(事務局) ヒアリングの中から出てきたと思います。

(ライテック) 定期券の割引率がかなり高いということで、そこで定期券に手をつけていってはどうかということだったと思います。この時点で300円をどうにかするというところまでではない。

(事務局) 宗像路線ではなく、六合路線です。六合路線は全線に補助を出しているわけではなく、自主運行で協議運賃を使っている部分があります。自主運行になっているので、収支をみなければいけない。定期券の割引率が高いということで、運賃が上がれば、利益が出て、補助を減らせることにならないのかという案の中から出てきたものになります。これをやるということではなく、事業者からの意見ということで、こちらのほうに掲載させていただいています。

(事務局) 補助路線が4本あって、背景も事情も違うということなので、それぞれの収支状況を踏まえつつ、具体的には、これからやっていかなければならない部分になる。その他何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。計画の素案について、分科会では異議はないということでもよろしいでしょうか。

【異議なしの声あり】

(事務局) 異議がないとのことですので、24日の会議の方に報告させていただきます。

(2) 宗像路線の実証運行について

(事務局) つづきまして、議題(2)「宗像路線の実証運行について」ご説明いたします。

【事務局説明】

(事務局) 今の説明についてご質問がありましたら、お願いします。特にご質問がなければ、この方針案について、ご承認いただけるということでもよろしいでしょうか。

【異議なしの声あり】

(事務局) 承認が取れましたので、24日の会議の方に報告させていただきます。

5 閉会

(事務局) それでは、以上をもちまして「令和2年度第2回師戸地区対策分科会」を終了いたします。ありがとうございました。